

< 2020年 6月 >

古賀 順子

「COVID 19 ロックダウン最終解除」

5月28日フィリップ首相および関係閣僚のテレビ記者会見が行われ、5月11日の第1段階ロックダウン解除から3週間が無事に過ぎ、第2段階(6月2日から21日まで)の緩和が発表された。

*ゾーン色分け

6月2日からイル・ド・フランス(パリと首都圏)、ギューアンヌ海外県(爆発的なコロナ感染が続くブラジルと国境を接する)、マイヨット海外県(アフリカ大陸南東マダガスカル島に近いコモロ諸島の一つ)が特別な注意を必要とするオレンジゾーンに変わり、その他は全県緑ゾーン。赤ゾーンはなくなった。

*学校関係

6月2日以降フランス全土の小中学校再開が許可されたが、厳しい条件(生徒間の距離、給食の条件など)をクリアできない学校も多く、学級閉鎖が続いているところも珍しくない。高校は特に職業訓練高校を優先的に部分的に再開している。

* カフェ、レストラン、バー

6月2日から条件付きの営業再開が可能となった。オレンジゾーンにおいては室内サービスは禁止、テラスのみの営業。レストラン内の移動時はマスク着用、各テーブル間の距離最低1m、1グループ10人以内など厳しい条件で、再開しても利益にならないどころか損失に陥る店もあり閉まったままのところも少なくなっている。

*公園、庭園

5月30日からフランス全土の公園、庭園が再開された。リュクサンブール公園、モンソーリ公園を始め、パリの公園が再開され、窮屈だった自粛から開放された。6月8日からはジヴェルニー・モネの庭園が再開

され、美しい花々を見ることができるようになった。人数制限のため全予約制、10人以上のグループは禁止。外国人観光客が消えた庭を近隣のフランス人がゆっくり散歩している。ヴェルサイユ宮殿と庭も再開し、少しずつ日常に自然が戻ってきた。

*100km 制限

自宅から100km以内の制限が解けて、フランス全土を自由に移動できるようになり、遠くの家族や友人に会いに行けるようになった。

*空の便

6月15日からEU圏内の国際線を隔離措置なしで再開予定だが、ヨーロッパの足並みは揃わず、観光収入が国を支えるイタリアでは6月3日からすでに国境を開いている。フランスは相手国との相互主義を原則とし、6/15までにEU圏内調整を行うとしている。日本などのEU圏外に関しては6月末まで渡航禁止。7月から個別に条件を話し合う方針だ。今夏フランス人のバカンスは国内経済を支援する意味でも80%が国内旅行、近場の再発見、7・8月の夏休みを返上して働く人も多い。

こうして、5月11日から段階的、地域的に始まったロックダウン解除から1ヶ月が過ぎ、6月10日時点で一日の死亡23名、感染者数130名、重症入院患者数933名とウイルスは順調に統制下にあると政府発表が行われた。ロックダウン完全解除(最終段階)は6月22日からの予定だが、経済状況があまりにも深刻で、繰上げ解除を求める声が大きくなっている。6月14日(日)20時からマクロン大統領テレビ演説が予定され、繰上げ解除を大統領が決断するのか注目されている。支持率回復、緊急事態の危機管理の是非などに大きく影響するとみられている。

コロナウイルスの季節性が議論される中、まもなく夏がくる。一時的であれ、夏を楽しむ余裕がある状況になって欲しいと思う。